

## 〈集中講義の開講のお知らせ〉

科目番号：10501

科目名：地域と世界

授業題目：愛媛の明日を考える

—女性と子どもの笑顔のために—

(大学コンソーシアムえひめ共同授業)

代表教員：古賀 理和

※ 授業の内容は、「シラバス」で確認してください。

※ 別紙掲示物も参考にしてください。

授業日程：8/27（月）～8/30（木）

予備日 8/31（金）

場所：GH

対象：全学部 2015（H27）年度以前入学生

定員：90名

(同時開講の「10751 文系主題科目」との合算)

履修を希望する学生は、下記の期間中に  
共通教育の窓口で履修手続きをしてください。

履修手続期間：3月28日（水）～4月27日（金）

# 愛媛の明日を考える

## — 女性と子どもの笑顔のために —

「女性と子どもの笑顔のために」を統一テーマに、愛媛県内  
11 大学が共同で本授業を開講します。

各大学の教員が専門領域を活かして共同で授業を行い、  
他大学の学生とともに、愛媛大学で受講します。

社会の変化に伴い、女性と子どもをとりまく環境は大きく変  
化しています。女性の暮しや子育てへの意識も多様化して  
います。

女性の多様な生き方、家族関係、子育て支援、幼児教育  
など、多様な内容を取り上げ、具体的に学んでいきます。

女性と子どもの笑顔のためにどんなことができるのか、他大学  
の教員や学生と一緒に考えましょう。



**開催時期** 2018年8月27日(月)～8月30日(木)

予備日8月31日(金)

**開催場所** 愛媛大学 グリーンホール

**参加大学** 愛媛県内 11 大学

今治明德短期大学・愛媛県立医療技術大学・愛媛大学

環太平洋大学短期大学部・聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部

放送大学愛媛学習センター・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

松山大学・松山短期大学

**問い合わせ: 共通教育チームまで**

平成30年度大学コンソーシアムえひめ共同授業 日程

テーマ： 愛媛の明日を考える－女性と子どもの笑顔のために－

テーマ英語表記：Let's think about the future of Ehime ～Smiles for women and children～

キーワード：現代社会（Contemporary Society）、コミュニティ（Community）、家族（Family）、育児（Child Care）、介護（Elderly Care）、幼児教育（Early Childhood Education）、仕事（Work）、ジェンダー（Gender）

場 所：愛媛大学

開講期間：平成30年8月27日（月）～8月30日（木）但し、8月31日（金）を予備日とする。開講時間：1時限目：9:00～10:30、2時限目10:45～12:15、3時限目13:15～14:45、4時限目15:00～16:30

番号	講義日程	所属・職名	担当者名	コマ数	テーマ	サブテーマ	キーワード	概要（200字程度）
0	8月27日（月） 午前10:00開始	松山東雲女子大学 松山東雲短期大学			ガイダンス			
1	8月27日（月） 2限目	今治明德短期大学 幼児教育学科 准教授	寺川 夫央	1	現代社会における子育てと人間の 発達－女性、子ども、地域の観点 から考える		現代社会 子育て 人間の発達 女性 子ども 地域	女性のライフコースからみて大きな出来事である出産・子育て。ポジティブな出来事ですが、それが負担や悩みの種になることがあります。現代では、子育ては孤育てになり、子どもの育ち、すなわち人間の発達においても様々な課題が生じています。そこで、現代社会における人間の発達について、女性、子ども、地域の観点から課題を概観し、子育てを中心にした社会を通して私たちが笑顔で成長できるよう、今後どのような意識をもって行動していけばよいのか、講義、ワークを通して考えます。
2	8月27日（月） 3限目	愛媛大学 法文学部 講師	笹沼 朋子	2	女性労働者の権利の歴史	①女性も平等な労働者であるということ	男女平等 均等法の歴史 育児休業・介護休業	現在、働いている人も、これから働く人も、育児や介護を担いながら、どうやって労働者としての責任を果たすのか、不安を覚えている人は少なくないと思います。それは現在の問題ではなく、実は、ずっと昔から、多くの労働者、特に女性の労働者が抱えてきた問題です。でも、そうした問題を抱えて、わたしたちの先輩たちは、権利を訴え、法制度を変えたり、創設しながら、労働条件や労働環境を改善してきました。ここでは、そうした先輩たちの歩みを見つめていくことによって、今、不安を抱えている自分たちができることを模索していこうと思います。
3	8月27日（月） 4限目							
4	8月28日（火） 1限目	松山大学 人文学部社会学科 准教授	石川 良子	2	ホッとできる「居場所」作りのヒント－ 「ひきこもり」から考える	①「ひきこもり」生み出す社会とは？	居場所 まちづくり 安心 ひきこもり	内閣府による調査によれば、15～39歳で半年以上、ひきこもっている人は約54万人に上るそうです。40歳以上の人を含めれば、この数字はもっと膨らむでしょう。もはや「ひきこもり」は一部の特別な人たちの問題と断言することはできません。誰がいつひきこもってもおかしくない、私たちは今そういう社会に生きているのです。では、これだけ多くの人がひきこもらざるを得ない社会とは、一体どんな社会なのでしょう？ 前半では、このことを考えてみたいと思います。そのうえで後半では、苦しいなかでも一息つけるような居場所作りのヒントを、「ひきこもり」の支援から学びます。ホッとできる居場所を地域のなかに作っていくことで助けられるのは、ひきこもっている人たちだけではなく、どうすれば誰もが笑顔で暮らせるような地域を作っていけるのでしょうか？ このことを「居場所」というキーワードを切り口に考えていきます。
5	8月28日（火） 2限目							
6	8月28日（火） 3限目	松山大学 薬学部 医療薬学臨床部門 教授	山口 巧	2	女性と子供の健康な生活のために	①女性が知っておきたい薬のこと－1－	妊婦 授乳婦 小児 医薬品 効果 副作用 避妊薬	現代社会において、医薬品は病気を治療する必須アイテムである。最近では多くの医療用の医薬品が市販薬化され、セルフメディケーションとして自分の体を自分で健康にしていこうということが社会で一般的になってきている。しかし、女性にとっては、妊娠、出産、授乳の時期には「医薬品を服用すること」は、自分だけでなく胎児や出産後の赤ちゃんにまで影響を及ぼしてしまうかもしれない。女性や子供が本当の意味で健康な生活をしていくために薬とどのように付き合うべきかを考えてみる。
7	8月28日（火） 4限目							
8	8月29日（水） 1限目	愛媛県立医療技術大学 看護学科/助産学専攻科 准教授	小嶋 理恵子	2	親になる過程における援助の実際	①－親役割・夫婦関係への援助実際－	母親 父親 夫婦関係	妊娠出産は、単に家族員が増えるということだけでなく、母・父親になるという場でもあります。援助者の連携はどのようにされているのかといった事も説明します。そして、子育てをしている母親、父親が、親としてのアイデンティティを獲得し育児に向かうプロセスを説明します。
9	8月29日（水） 2限目							
10	8月29日（水） 3限目	聖カタリナ大学 人間社会学科 教授	長尾 由希子	1	職業の男女比について考えてみよう		ジェンダー	「女性と子どもが暮らしやすい社会」とは、女性と子どもだけではなく、それ以外の人にとっても暮らしやすい社会であってほしいと思いませんか。この講義では、男女の割合の差が大きい職業について考えることを通じて、そのような社会の在り方について考えるヒントを見つけてもらいたいと思います。何か正解を提示するのではなく、自分なりの意見をもってもらうことを重視します。
11	8月29日（水） 4限目	環太平洋大学短期大学部 教授	黒澤 寿美	1	ママと子どもを笑顔にする保育者とは		幼児教育 子育て	子育ては楽しいことばかりではありません。辛いことや悩むこともたくさんあります。そんな時お母さん達の支えになることができるのが保育者です。本講義では、お母さんや子どもを笑顔にすることができる保育者とはどのような存在なのか、実際の保育事例を取り上げながら一緒に考えていきたいと思います。
12	8月30日（木） 1限目	愛媛大学 教育学部 教授	青井 倫子	2	見えない教育 ～幼児教育（保育）の内容と方法を知る～	①遊びの教育的意義	幼児教育（保育） 遊び	“ヒトは遊んで人間になる”とも言われ、幼児期の子どもにとっての“遊び”は人間形成の基礎を培うものであり、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な“学習”です。子どもたちは、遊びの中で多様な意味や価値、かかわり方を発見し、自らの世界を生き生きとひろげていきます。小学校以上の教育とは異なり、環境を通して教育するという幼児教育（保育）に特有の教育のあり方について学びます。
13	8月30日（木） 2限目							
14	8月30日（木） 3限目	松山東雲女子大学 心理子ども学科 講師	柴崎 あい	2	共に生きる社会をつくる	①被災地支援に見る「笑顔のつくり方」	女性と子ども コミュニティづくり 共生社会	誰かを笑顔にするためには？自分が笑顔になるためには？震災という非常事態下で笑顔をつくるために、どのような取り組みが行われたのでしょうか。また、各地で展開される「子ども食堂」は、地域の日常の中でどのような笑顔をつくらしているのでしょうか。この社会をつくっているわたしたち、愛媛に暮らすわたしたち一人ひとりが、笑顔を生み出すコミュニティの小さな担い手となるための考え方や行動について、対話しながら共に考えていきたいと思います。
15	8月30日（木） 4限目							